

主日礼拝

2025年11月30日 10時20分～

司式:

奏楽:

《神の招き》

前 奏 『いずこの家にもめでたきおとずれ』 J. G. ヴァルター
灯火入堂 アコライト:教会学校

招 詞 ガラテヤの信徒への手紙3章29節
賛 美 歌 242

《神の言葉》

祈 禱 アドベントの祈り
聖 書 創世記25章19～26節 (旧約35頁)
マタイによる福音書1章1～17節 (新約1頁)

子ども説教
交 読 詩 編 詩編82編1～8節 (98頁)
賛 美 歌 457
説 教 「アブラハムの子」 八木浩史牧師
祈 禱
賛 美 歌 236

《感謝の応答》

信 仰 告 白 使徒信条
献 金
祈 禱 献金当番
主 の 祈 り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派 遣》

頌 栄 24
祝 福
報 告
後 奏

「アブラハムの子」

『創世記』ではアブラハムの子、イサクが授かった双子の息子たちについて記されています。イサクの妻リベカは不妊でしたが、祈りが聞かれて身ごもります。ところがそれは双子であり、胎内で押し合うのです。それはやがて彼らがイスラエルとエドムという民族を形成し、対立するようになることの前兆でした。兄弟は愛し合うべき関係であるはずなのに、兄弟であるからこそ争いも起こるのです。それが罪を持つ人間です。アブラハムには妻のサラ以外にも側女たちがあり、彼女たちによって子たちを得ていました。サラを通して子孫が与えられ、祝福されるという神の約束を信じきれなかったアブラハムの信仰の弱さ、罪が見えます。それら傍系の子孫はカナン、アラビア、メソポタミア地方等に散らばり、各民族を形成していきます。しかし神はアブラハムにこのようにもおっしゃっていました。「私はあなたを多くの子孫に恵まれる者とし、諸国民を興す者とする。こうして王となる者たちが、あなたから出るであろう。」(創世記17:6)

『マタイによる福音書』の冒頭には「アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図」と書き始める系図が記されています。アブラハムの子からダビデ王や、多くの王たちが生まれます。その系図はイスラエルの歴史を表すものであり、また神に背き続ける罪人の歴史でもあります。やがて王家は衰退し、無名の子孫ばかりとなり、最後に大工のヨセフの子として、主イエスが誕生なさいます。この方こそ、世界の民を「アブラハムの子」とするまことの王であり、罪からの救い主なのです。

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
音響: 映像: